

GRAZIE

“グラツィエ”

2008.10
No.007

夏・秋号

“グラツィエ”とはイタリア語で“ありがとう”的意味。陽気なラテン民族の言葉に倣って、素直に感謝の言葉を口にできる明るい場作りを、本学科は心がけています。

特集 国際コミュニケーション学科一期生、ついに就職目前

2005年に明星大学に国際コミュニケーション学科が創設されて4年。一期生らは海外での長期留学経験を終え、現在就職活動中。『国際コミュニケーション学科で勉強をすると、こんな就職が待っている!』。そんなテーマを基に、現在4年の5人に集まってもらい、実際の就職活動体験をじっくり語ってもらった。

動機と活動の成果

山内：教員になることが昔からの夢でした。万が一落ちた場合には非常勤講師から教員になる道もあると先輩に教えてもらっていたので、4年生になってからは教員採用試験一本で行きました。

小林：私は逆に、地元山梨の教員採用人数が狭き門だということを知って、教員一本で頑張るガッツは失ったので、塾講師の道も同時受験(笑)しました。

落合：なるほど。私は入学した時に教職取ろうかなと考えたこともありましたが、履修科目が多くてめげました(笑)。自分の性格なども考え、「せっかく培った英語が使える」「風通しがいい」「意見を言える」という条件で会社を選んでみたら、=外資系、結果：ミシュランということになりました。古い体質の日本企業は自分には肌が合わないと感じ、ベンチャー系も受け、30社まわって、選考を受けたのは10社、2社から内定もらいました。

鈴木：僕は数打ちゃ当たると思って、30社受けましたが、実際、数打つのはあまり意味がなかったです。とにかく「英語が使える仕事」から会社探しをして、今のところ物流から内定もらっています。

野嶋：僕も「英語が使える」ってのが条件でした。だから単純に、旅行系に当たったんですが、一次で落ちて、それからホテル系に切り替え、8社受けたところで地元ホテルから内定を頂きました。

ディスカッションでした。その時にしゃしゃり出て(笑)リーダーをやった私を、面接官が遠くから見ていたことが後で発覚(笑)。第三ステップから個人一次面接となり、二次面接は営業と採用の人2人を相手に面接、三次面接はなんと実際に営業マンに一日同行して、会社についての感想を言うという課題を出されました。するとその日のうちに電話がきて、内定未決定の状態でもう一度お話をしたい」と言われたのですが、そこで建前チックなことを並べたら、いきなり面接官が「そういうことが聞きたいんじゃないんだよね」って(笑)。そこから頭が真っ白になって、「会社のこういうところがダメなんじゃないですか?」と率直に言ってしまい(笑)、さらに「なぜ私を探らないんですか?」とダメ押し(笑)。「もし探らない理由があるん

だったら今言って下さい、学生生活の残りで直します!」と思わずすぐむと、晴れて内定となりました。つい……スミマセン……(笑)。

ケース② 日本企業にて(鈴木)：僕の場合は、落合さんとは真逆で、外資系がまったくダメでした。会社へ行ってみて、評価システムとかは良かったんですけど、風土的なものが合わないと感じました。僕は「会社の雰囲気が自分に向いてる」のを一番の条件にしていたので、面接に行ったらまず、そこに集まる“人種”を見ました。実は僕は面接がめちゃ苦手で、落ち着いた“フリ”をしていたんですけど、逆にかなり年上の面接官から「君、すごい落ち着いてるねえ」と言われて、「君みたいなタイプなかなかいないよ」と言われ、その場で内定(笑)。日本の企業風土だと、逆に主張



座談会メンバー

就活プチドラマ

ケース① 外資系企業にて(落合)：各企業に足を運びながら、ココロが折れたことも。特にすごい行きたかったところに12月から活動し、2月にフラレた時。「あたしを落としてどうするつもり?」「優秀な人材を惜しいことをしたね」と解釈して、落ち込まないようにしました(一同笑)。一ヶ月くらい就活を休んで、また4月に再開。ミシュランは、第一ステップが会社説明会、第二ステップがグループ

A 教職系 山内さん(教員採用試験結果待ち)米国半期留学

B 民間企業系 小林さん(塾講師内定・教員採用試験結果待ち)オーストラリア半期留学

C 地元ホテル系 野嶋くん(地元ホテル内定)オーストラリア半期留学

鈴木くん(物流に内定・コンサル会社に就職活動続行中)英国半期留学

D 外資系企業 落合さん(外資系メーカーの営業内定)オーストラリア1年留学

<http://www.meisei-u.ac.jp/dpt/International/>

が強すぎない僕みたいな性格の方がヒットするのかもしれません(笑)。あと僕が感じたことですが、大企業に入りたければ筆記試験のための特別な勉強が必要かもしれません、そんじゃなければ新聞などをきっちり読んでいるだけでも十分かなって気がします。実際僕、筆記では落ちたことがなかったし……。

ケース③ 教職の現場にて(小林)：教職の私の場合は、面接官に単刀直入に「学校と塾、どっちが第一志望なの?」と訊かれた時が一番困惑しました。でも塾の方は塾の方で講師をやりたい人は教職試験も受けることはわかっているんです。だから私は、「どっちが第一志望とかっていうのは、それぞれいいところがあるから言えないです」と答えて切り抜けました(一同笑)。「学校はみんなが行かなきゃいけないところ、塾は意欲のある子どもたちが来るところ、だからどちらがと単純に比較はできません」と。あと、「アルバイトで学んだことは何ですか?」と聞かれ、「レストランで働いていたのですが、言葉の大しさと誠意を学びました。言葉をかけるにしても表情を変えるだけお客様の反応が違うし、言葉に気持ちがこもっていればお客様はわかつてくれる、教育の現場でそういう経験が生かせると思います」と答えました。結局、せっかく内定を頂いても、万が一教員採用試験に受かったら辞退するかもしれないということを職場が理解してくれているということは、とてもありがとうございました。

いい就活のためにはこれ!

野嶋：自己分析(自分の得意不得手をわかってないと、データシートが書けないから)といろんな

経験(授業+a)

落合：①ネタ作り(他の人でも言えるバイトとか留学だけではない、自発的な何か。ネタ作りは時間がかかる) ②自分が目指す業界を絞りすぎない(一つの業界にこだわり過ぎていると視野が狭くなり、失敗した時に行き先がなくなる可能性も) ③早めに行動!(3年生の夏にはアンテナを張り始めて、社会を見渡す時に働く側に立っている自分を想像してみる)

鈴木：ある程度の妥協(最初は高いところを目指していても、現実的には自分にぴったりの会社に出逢うのは難しく、8~9割の人はある程度の妥協の中で自分のペースを守れる落としどころを見つけています)

山内：「〇〇以外はやりたくない」という自分の気持ちから出発して、仕事のターゲットを見出すのも手。私の場合は教員になるには7~8年かかるっていう話を聞いても、教職以外はやりたくない、高校生の時から教職になりたかった、学校が好きだったという気持ちが強いことから、逆に道を選択しやすかった。

その他、就活のポイント

- ◆ 目指す先によっては、DM・ポスターの合同説明会はあんまり意味がないかも
- ◆ 英語での面接があるところもあるので、留学経験はそれにはとても役立つ
- ◆ 教職の二次の模擬授業では、指導案を作成し、英語で授業をやる
- ◆ 中学の教員試験も、実技で英会話があり、グループでのディスカッションも
- ◆ 小さな規模の会社だと、約3週間で結果が出

る

- ◆ 単なる留学は役に立たず、それを通じて自分がどう成長したかがポイント
- ◆ 面接では、内容よりも話し方を見られているという感じがした
- ◆ ベンチャー企業系以外は、大学の就職課の紹介が結構役に立つ
- ◆ 就職課では既に就職している先輩を紹介してくれるサポートもしてくれる
- ◆ 就職課にない情報は、インターネットで収集
- ◆ こっちが4人、面接官が8人という集団面接もあり
- ◆ 大学の教職センターでは面接の練習をさせてくれるが、これはかなり有益
- ◆ 明星の教職専門就職支援はかなり充実していて、講座のサポートもあり
- ◆ 教員採用と民間企業と公務員試験、三種類の就活は、とても両立できない
- ◆ ベンチャーの面接は独特で、就活の面接を振り返ってどうかなどと訊かれる
- ◆ 学科の対人コミュニケーションの授業は、就活の面接に直結して役立った
- ◆ 学科主催のサマースクールへの参加は、教職にはとても有益だった

かなりこの半年ガンバッタ感のある5人に、編集スタッフが「みんな、積極的だねえ」と声をかけると、5人は口を揃えて言った。「最初はそんじゃなくても、結局積極的にならないと話は進まないし、採ってもらえない。だから最終的にはみんな積極的になっていくんですよー!」 実はいい就職に一番大切なのは、積極性、なのかもしれません。

編集部 ■

『就職座談会に同席したM子(一年生)の感想』

——就活とはいっていいかなるものなのか。就職座談会で話されていた主に2つのことについて深く掘り下げてみた。

まず1つめは面接について。これは個人面接と集団面接があり、集団面接で見られることはコミュニケーション能力や協調性、常識力、クリエイティブな思考のことだった。質問としてはアルバイトで学んだことは何かというありきたりな質問をはじめ、時事系の会社では気になるニュースは何かと聞かれるようだ。ということは普段から日本にとどまらず、世界の情勢にも興味を持ち、アンテナを張り巡らせておく必要がある。また好きな映画は何かと聞かれた人もいたことなどから、質問はバラエティーにとんでいる印象。留学は就活に有利かどうかについてだが、今の時代、留学はお金があれば誰でもできることなので、大事なのは、留学して自分がどのように変わり、何を得たかをはっきりさせておくことらしい。だから、これから留学に行く人たちは『ただ行く』のではなく、目的意識をしっかり持って行ってほしいと思った。

中には就職希望者1人に対し面接官7人がつき、さらに社長も含まれていたというケースもあったそうだ。また、何をしゃべっても表情は変わらず、何と

かして笑わそうとしたが全く効果がなく、話す気力を喪失させるような面接官もいたというのが先輩達の体験談。ただ先輩達によれば、例えそのように圧倒される場面があったとしても、逆に面接官を圧倒するぐらいの気迫を持ってほしいとのことだった。「強気でのぞむことが大切だ」と。そんな言葉からもわかるように、就活あるいは就活を終えた先輩方に共通していることは、大変積極的であるということ。誰も手伝ってくれない、自分から動かなければ何も始まらない。それが就活である。

明星大学の授業の中で面接に役に立つ授業を聞いたところ、津村先生の対人コミュニケーションと田中先生の異文化コミュニケーションという授業が大変役に立つようだ。

この授業の魅力は普段の生活そして面接に直接することを教えてくれるため、一般に売られている面接攻略本もかなわないほどであるようだ。

2つめは、自己分析について。自分が何が得意で何が苦手なのかを知ることが大切という先輩の意見があった。だが、ここで気をつけなければいけな

いことは「完璧を求めすぎない」ことだ。と、「俺はこれをやるために生まれてきた!」というものがあればいいが、それがなければただ自分の視野・可能性を狭くするだけというのが先輩の意見だった。小さい頃からの夢を実現できる人はほんの一握りの人たちだけであり、先輩たちが口を揃えて言うには、「妥協はするものだ」ということ。

とにかく自分をよく知るためにも、普段からいろんなことにアンテナを張っておくことが大事ということだった。学生のうちにとにかくいろんなことをやってみる、しかも人と違うことをやってみる。バイトに明け暮れる人もいるが、バイトは誰でもやっていて当たり前なことなので、アピールする材料としては不足。また受動的な行為ではなく、自主的に自分から動いていくことをすれば、アピールに値するものが得られるというのが先輩の見方だった。

3年後を見据え、目の前の楽しさや忙しさに振り回されることなく、目の前の課題に取り組みながら、一步一步自分の道を歩んでいこうと思った。

M子 ■

春のオリエンテーション キャンプ開催



4/4・5の一泊二日、明星学苑八ヶ岳山荘でオリエンテーションキャンプが行われました。今年の目玉は、プログラム二日目の野外活動。頭で考えるだけが勉強に非ず、五感をフル活用した体験も勉強ととらえる本学科では“キープ自然学校”の協力を得、『森の木々の間伐を体験、自分で間引いた枝を使ってMyお箸を作り、それで山梨県名物のほうとうを食べよう!』という企画を実施しました。日常では野外活動から遠いところにいる学生も、レンジャーの上手なリードによって、初めての箸作りを体験。手作りお箸には各自の個性が發揮され、それがきっかけとなって見知らぬ者同士の会話もおおいに弾みました。

ました。

「野外活動が意外と面白かった」「空気が美味しいくて、開放的な気分になれた」「留学経験のある先輩の話が印象的だった」「寝食を共にして同級生との距離が一気に縮まった」と新入生の感想も上々。二日目ともなると冗談を言い合えるほどになり、最初は緊張気味だった新一年生もかなりリラックス。「これからが楽しみ。大学生活での目標とか意欲が湧いてきました」。ふと漏れた新一年生の言葉に、それを聴いていた男性教員は「どんな小さな可能性でも育ててあげたい。それが私たちの使命ですから」と思わず目を細めました。

学生主催の “ポットラックパーティー”



上級生と下級生の交流企画“ポットラックパーティー”が、学科の現役学生主催で5/25に開催されました。ポットラックとは英語のPOTLUCK、みなで一品ずつ食べ物を持ち寄るパーティーのこと。その気軽さゆえ欧米ではとても盛んなのですが、今回は新一年生ほか、約40名の学科関係者が集まりました。

持ち寄りだからこそ楽しみなのは、それぞれの個性が存分に發揮された持参品。「この蒸し餃子、中国語の李先生の手作りだって!」「このカラフルなお菓子は、ニュージーランド留学していた先輩のお土産だよ!」「英国で半年間研究していた田中先生の“研究成果”(笑)は、このフルーツポンチ。グレープジュース味にシナモンが効いてて激ウマッ!」下級生が上級生に忌憚のない質問をぶつけられるのも、このパーティーの特徴。「留学を中国にしようか、英語圏にしようか迷っているんですけど……」という一年生の悩みに、「両方行けば? フィールドワークと長期留学を履修すれば、両方行けるよ!」と、三か国語を自在に操る先輩が後輩の背中を押すシーンも。最後大盛り上がりとなったbingoゲームでは、国際色豊かな学科らしく、中国語、英語、日本語、そして菊地先生のスワヒリ語までが飛び交い、新一年生からは学科がはらむ世界観の広さにちょっと驚いた様子でした。

こんなこと、やりました! 4月▶8月編

海外現地コーディネーター、 国際教育センターを訪問



6/2、本学科に顔を見てくれたのは、オーストラリア・クイーンズランド工科大学コーディネーターのマイケル・ミラー先生。現在本学科から2名の女子学生が1年間の予定で同大学に長期留学をしていますが、ミラー先生は、彼女らが大変元気に留学を謳歌していることを報告してくれました。

本学科の留学サポートスタッフが先生に「うちでは提携校を決める際に必ず現地を自分たちの目で確認しており、提携後も常時現地校との密な連携を取れる体勢にしています。だからミラー先生のような日本語ペラペラの現地の世話役がいて下さるのは心強い限り、それこそが我々が学生さんに対して出来る、最大のサービスですから」と伝えると、「それだけ手厚い留学斡旋をしているというのは、学生さんも幸せですね」と

ニコリ。「私が留学生の小さな不安をすべて解決します。任せて下さい」。日本語検定1級、俗語も飛び出すミラー先生が留学生を気遣ってくれる限り、スタッフも一安心。

「現地との密なつながりは明星ならではだよね」という学生からの声を励みに、留学サポートスタッフは、足しげく現地訪問を重ねています。

ゼミの時間を使って、 留学報告会が行われました



留学志望者が多い本学科の学生たちにとって、興味津々なのがゼミの時間に行われる『長期留学経験者による留学報告会』。今年も現場での細かな生情報を、約15名の先輩が国別に、スライドにまとめて報告してくれました。

「とにかく物価は高かった。マックのチキンバーガーセットも1000円以上!(英国)」「人口の三倍くらいの羊がいました(NZ)」「飛行機に1時間も乗れば近隣の国々へ行けてしまうのが、ヨ

ーロッパに留学をする利点の一つ(アイルランド)」「人がとても優しくて、初日に学校へ行く道に迷った私を学校まで連れていってくれた人もいました(英国)」。

特に新一年生の関心が高かったのは、次の二点。

Q1:『学費以外でどのくらいのお金がかかりますか?』 A:「米国でホームステイの場合には、一ヶ月およそ8万円が生活費」 A:「ヨーロッパは結構かかりますが、アイルランドでは週20時間限定(最低賃金1600円)でアルバイトができます」 A:「値段の比較からだけで言うと、ニュージーランドが割安」

Q2:『最初英語が全くできなくても、帰国する頃には喋れる位になりますか?』 これには留学経験者全員が揃って、堂々の「YES!!」

A:「僕は英語が大嫌いでした。でも帰ってくる時にはペラペラ」 A:「クラスは6段階に分かれていたのですが、最初はレベル1だった人も帰国直前にレベル5だった」 A:「近隣諸国に一人旅行に行けるほど、気付かないうちに実力がついてました」 A:「日本を出発する時に全く話せなくとも全然問題ないです。語学研修に集まくる人って、基本、まず話せませんから(笑)」

この日ゼミに集まつた新一年生の中で、真剣に留学を考えている人は約半数強。先輩たちの話は、これからを考える上でおおいに刺激になったようでした。

覗いちゃつた オモシロ授業

コレハオモシロイ!
そんな授業を
学生記者が
体験レポート



コミュニケーション外国語とは別に、第二外国語として他の言語と触れられる全学共通科目外国語の一つである中国語。どちらかというと、やはり英語の方の履修者が多いため、少数クラス（現在4人）で授業が行われています。

担当は大朝薫先生。この授業はちょっぴり変わっています。中国語と言えばまずイメージするのは漢字。しかし大朝先生は「中国語は漢字よりまず発音!」というわけで、学生らは中国の特徴的な漢字はまだ書けなかったりします。先生曰く

大学近くの こんな店

ネパール&
インドレストラン
[パリバール]

海外の香りには何かと敏感な本学科の学生たち。つい先日も嗅覚鋭い女子学生たちがオモシロそうなお店を発見、早速現地に赴き、レポートしてくれました。

お店のランチタイムで…

F：お店の中もアジアンな雰囲気だね。キッチンの店員さん、ネパール人なんだって！ホールは日本人のお姉さんだから、メニューも

色々聞けて安心だね。

I：料理が楽しみ♪ランチメニューが4種類あるよ。私はAセット（¥890）！

N：ランチメニューじゃないけど、私はシーフードカレー（¥820）！

F：私はネパールセット（¥1000）。カレーの辛さが4段階で選べるんだって！

I：すごい！ランチはライス・ナンお替り自由だし、至れり尽くせりだね。

N：ねえ、飲み物の“チャイ”ってなーに？

I：それはね、インドでよく飲まれているミルクティーみたいなもの。一般家庭でも飲まれるけど、路上でも売っているの。カレー屋さんのメニューにたまにあるけど、扱っているところはめずらしいのよ。

F：じゃあ、この“ラッシー”っていう飲み物は？

I：日本でいう飲むヨーグルト、かな。カレーとよく合うよ。インドでは色々な味付けされているのもあって、子供たちのおやつ代わりになっている。中には“バング・ラッシー”っていうマリファナの葉入り(!)があって、インドでも当然違法なんだけど、一部地域では白昼堂々とあたかも合法であるかのように売られている場合もあるらしいの。日本ではまずないけどね。

N：さすがインド！（苦笑）。おいしいのかな。さっそく頼んでみよう！

注文後…

N：チャイって香辛料の香りが強いー。シロップを入れると飲みやすくなる！

F：ラッシーもカレーとよく合うし、おいしいー！

N：ナン（インド版パン）がでかー！お皿に収まらないし、焼きたてだし、もっちりしてるー！ナンとライス、あっちではどっちが主流なんだろう？

I：ライスだよ。ナンって釜がないと作れないから、一般家庭ではまず作れない。レストランとか行けば食べられるけど、基本的に階級が上の人たちだね。

N：そうだったんだ。ナンが高級なんて意外だな。

I：ちなみにFが食べてたネパールセットは、ネパールの一般的な定食なんだよ。ネパールではカレーをライスにかけて混ぜて手で食べるの。

Wanted

学生編集スタッフ募集中！

将来マスコミの仕事をしたい人、またはイラストなどで自己表現をしたい人、記事を書きたい人など常時募集中。企画段階から実際に形にしていくまで、全てを自分で体験できるので、とてもやりがいがありますよ。積極的な参加をお待ちしています。

これは是非載せて欲しい！の記事＆情報大募集

“GRAZIE”は、学生のみなさんと作っていくメディアです。より充実した内容にしていくために、どんな些細なことでもネタをお待ちしています。

[応募先] 〒191-8506 東京都日野市程久保2-1-1明星大学国際コミュニケーション学科
Tel 042-591-5329またはinfo-com@eleal.meisei-u.ac.jpまで

「漢字はすぐ書ける！それより声調を覚える方が先！」

そのくらい中国語は発音が難しい言語。ピンイン（ローマ字に当たる部分）につく声調（発音記号のようなもので1声～4声までの）が違うだけでも意味が全く違ってくるので毎回四苦八苦、一箇所だけ声調を読むところを間違えただけで「最初からやり直し！」と言われ、また元に戻って読むのはめに…。

そんな大朝先生ですが日本在住歴はなんと12年！ものすごく流暢な日本語で学生に接します。でも「人の個人情報を聞くのが大好き」と言うところは中国人らしく、授業中ごとに話題が飛び、「なんでこんな話になってるの？」と激しく脱線することも（笑）。その分、授業にはアットホームな雰囲気が漂い、教室では笑い声が耐えません。

このクラスに参加する学生は中国語検定の取得を目指していて、合格者には先生からのスペシャルご褒美があるとのことで、みな切磋琢磨しています。授業なんだけれど、なぜか先生とのリラックスタイムにも見える光景、それがとても印象的でした。

国コミ特派員N

F：豆カレーと野菜炒めとお漬物とサラダとライス……。日本の定食とあまり変わらないんだね。野菜炒めの味付けが香辛料たっぷりで、日本ではまずない味付け！けど……ここで手で吃るのはさすがに難しいでしょ。

I：誰も手で食べなさいなんて言ってないよ（笑）。それより……Aセットって2種類のカレーにサラダとライス、ナンまで付いて890円ってお得だね！

N：そうだね。ナン・ライスおかわり自由だしね。でも正直、女の子はおかわりできる量じゃないよね。シーフードカレー、今回は辛さ3にしてみたけど、色んなスパイスに海老とか魚介類の香りが混ざっていてとってもおいしいよ。確かに日本のようにはちょっと辛いけどね、シーフードの具もゴロゴロいっぱい入ってるし……食べごたえあるなあ。

●満足度

●サービス度

2008年5/16にオープンしたばかりのお店では、民族衣装を着た日本人のお姉さんがお出迎え。途中でネパール版漬物（激辛）をサービスしてくれ、ニコニコ笑顔で対応してくれたのだそう。カレー好きの人はぜひ、行ってみてね。（ちなみに店名のパリバールは、ネパール語で“家族”的意味です。編集部談）



►parivaar（パリバール）

お得なランチタイムは11:00～15:00 休日はまだ決めてないそう（笑）

住所：東京都日野市高幡1005-6シティホテル高幡1F

最寄り駅：高幡不動駅から徒歩3分。川崎街道沿いシティホテルの1F

電話番号：042-593-3407

「編集スタッフの呟き」

今回、特集のために4年生に協力してもらった『就活座談会』は、とってもオモシロかった。なにがって、客観的に見ていると、みんないろいろ 苦労はしても、最終的にはフシギと自分の性格に合った場所に落ちているという感じがしたから。希望通りの場所に行ければラッキー、希望通りいかなくてもそれはそれで、良きに計らえ。長い目で見れば就職も一つの通過点。とりあえずは新しい門出に「乾杯！」と言いたくなりました。Y